

令和元年度

川崎市立中学校 学習診断テスト

英語科

誤答分析と学習指導上の考察

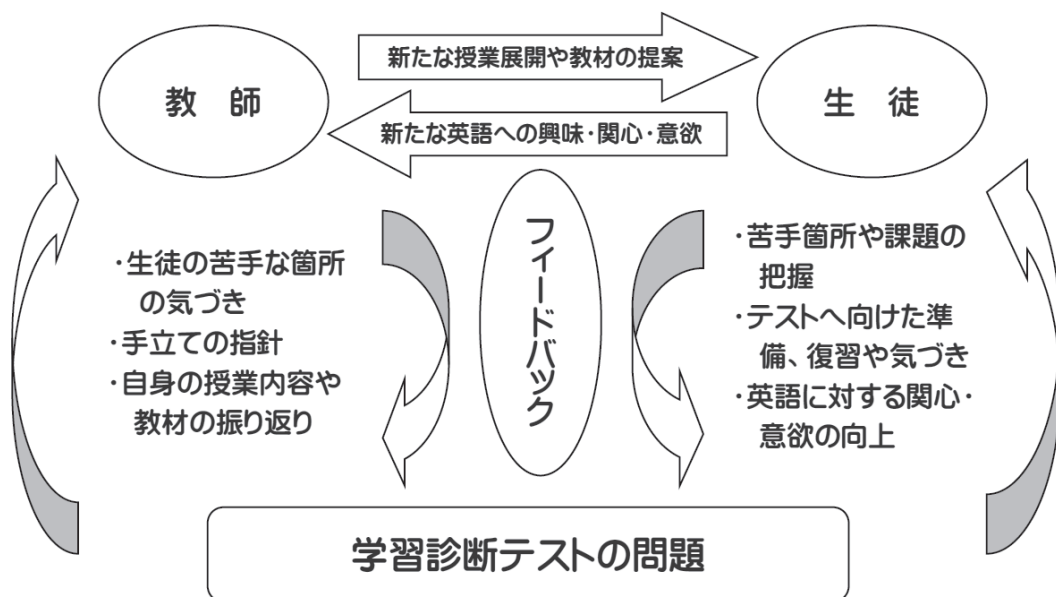
川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
英語科調査委員会

英語

I 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習診断テストの目的・趣旨に沿って、学習指導要領に示されている各観点の基本事項について、10月末までの学習の定着状況が把握できるように、出題の範囲やバランスを十分に考慮して問題を作成した。
- (2) 基礎的・基本的な知識の理解状況を幅広く診断するため、問題の形式や配列を工夫して作問した。
- (3) 思考力・判断力・表現力等の能力を総合的に判断できるように工夫して作問した。
- (4) 共通の言語材料を検討し、より公平に診断できる標準的なテストの作成を目指した。
- (5) 聞き取りテストでは、音声の聞き取り能力とともに、より自然な英語が聞き取れるかどうかを診断できるよう工夫した。
- (6) 「表現の能力に関する問題」については、より観点のねらいを明確にした作問を工夫した。



2. 出題のねらい

	1年生	2年生	3年生
問1	● 会話文の組立て (外国語理解の能力：知識技能) 絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	● 会話文の組立て (外国語理解の能力：知識技能) 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	● 会話文の組立て (外国語理解の能力：知識技能) 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。
問2	● 会話文の組立て (言語や文化についての知識理解：知識技能) 絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識理解：知識技能) 英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識理解：知識技能) 英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。
問3	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識理解：知識技能) 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識理解：知識技能) 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識理解：知識技能) 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。
問4	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識理解：知識技能) 文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	● 単語の並べ替え (言語や文化についての知識理解：知識技能) それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	● 単語の並べ替え (言語や文化についての知識理解：知識技能) それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。
問5	● 単語の並べ替え (言語や文化についての知識理解：知識技能) それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解することができる。	● 会話文の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	● 会話文の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。
問6	● 会話文の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 会話の内容を正しく読み取り、その内容にあてはまる適切な文を選択することができる。	● 様々な形式の英文の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 注意書きや会話文、メールなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	● 様々な形式の英文の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 広告やメール、会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な答えを選択することができる。
問7	● 様々な形式の英文の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 注意書きや会話文、メールのやり取りなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	● 長い文章の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	● 長い文章の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。
問8	● 長い文章の読み取り (外国語理解の能力：思考判断表現) 文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	● 英作文 (外国語表現の能力：思考判断表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	● 英作文 (外国語表現の能力：思考判断表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を完成させることができる。
問9	● 英作文 (外国語表現の能力：思考判断表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	● 英作文 (外国語表現の能力：思考判断表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	● 英作文 (外国語表現の能力：思考判断表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。
問10	● 英作文 (外国語表現の能力：思考判断表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。		
放送1	● リスニング(絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識技能) 短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	● リスニング(絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識技能) 短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	● リスニング(絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識技能) 短い会話文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。
放送2	● リスニング(絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識技能) 会話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	● リスニング(会話内容) (外国語理解の能力：知識技能) 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	● リスニング(会話内容) (外国語理解の能力：知識技能) 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。
放送3	● リスニング(会話内容) (外国語理解の能力：知識技能) 会話を聞き、その話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	● リスニング(絵を選ぶ) (外国語理解の能力：思考判断表現) まとまった長い英文を聞き、話の概要を理解することができる。	● リスニング(絵を選ぶ) (外国語理解の能力：思考判断表現) まとまった長い英文を聞き、話の概要を理解することができる。
放送4	● リスニング(会話内容) (外国語理解の能力：思考判断表現) まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	● リスニング(会話内容) (外国語理解の能力：思考判断表現) まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	● リスニング(会話内容) (外国語理解の能力：思考判断表現) まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。

Ⅱ 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語 第1学年】

問題番号		趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表	表現	理解	言語				
1	a	○			◎		絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	72	0	
	b	○			◎		絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	83	0	
	c	○			◎		絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	82	0	
2	a	○			◎		絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	87	0	
	b	○			◎		絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	84	0	
	c	○			◎		絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	87	0	
3	①	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	73	0	
	②	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	78	0	
	③	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	74	0	
4	a	○			◎		文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	54	15	
	b	○			◎		文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	46	18	
	c	○			◎		文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	63	24	
	d	○			◎		文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	73	10	
5	a	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	82	3	
	b	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	27	4	
	c	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	26	3	
	d	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	46	3	
6	a	○			◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容にあてはまる適切な文を選択することができる。	65	1	
	b	○			◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容にあてはまる適切な文を選択することができる。	78	1	
	c	○			◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容にあてはまる適切な文を選択することができる。	75	1	
7	a	○			◎		注意書きや会話文、メールのやり取りなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	86	1	
	b	○			◎		注意書きや会話文、メールのやり取りなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	28	2	
	c	○			◎		注意書きや会話文、メールのやり取りなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	45	2	
8	A	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	41	3	
	B	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	24	2	
	C	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	49	2	
	D	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	43	3	
9	a	○			◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	27	16	
	b	○			◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	31	27	
10	(1)	○			◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	32	10	
	(2)	○			◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	45	11	
放1	a	○			◎		短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	80	0	
	b	○			◎		短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	82	0	
	c	○			◎		短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	93	0	
放2	a	○			◎		会話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	94	0	
	b	○			◎		会話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	58	0	
	c	○			◎		会話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	87	0	
放3	a	○			◎		会話を聞き、その話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	79	0	
	b	○			◎		会話を聞き、その話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	91	0	
	c	○			◎		会話を聞き、その話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	77	0	
放4	①	○			◎		まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	93	0	
	②	○			◎		まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	82	2	
	③	○			◎		まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	74	7	
	④	○			◎		まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	61	1	

◎…主たる観点

平均正答率 (%)	
知識・技能	72.2
思考・判断・表現	52.9

2. 主な誤答と分析【英語 第1学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	3	72	0	1	23	aでは、thisとthatの使い分けについて、場面の状況を理解せず、安易に解答した誤答が多く見られた。様々な場面・目的・状況に応じたやり取りを重視した指導を意識したい。
					2	5	
	b	3	83	0	1	10	
					2	7	
	c	1	82	0	2	11	
					3	7	
2	a	3	87	0	2	5	bでは、Does～?の疑問文に対し、適切な形で応えることについての理解不足による誤答が一部に見られた。授業のやり取りにおいて、単語の応答だけでなく、文で応答する意識をもたせたい。
					4	5	
	b	2	84	0	1	9	
					4	6	
	c	1	87	0	4	7	
					3	5	
3	①	3	73	0	1	18	①や③の誤答では、疑問詞の使い分けや一般動詞とbe動詞の違いが理解できていないことによる誤答が多く見られた。基本的な表現については、授業の中で繰り返し活用する場面を作っていくたい。
					2	9	
	②	1	78	0	2	13	
					3	9	
	③	1	74	0	3	20	
					2	6	
4	a	cold	54	15	cool	16	aでは、coolという解答が多かった。完全な誤用とまでは言えないが、暑い日に欲する「冷たい水」をどう表現するかを考えさせる機会にしてほしい。また、発音できても正しい綴りで表現できない誤答が多く見られた。フォニックスの指導を取り入れるなど、音声と綴りを結びつけることを日頃から意識させたい。
					cord	4	
	b	work	46	18	wark	9	
					wolk	4	
	c	sometimes	63	24	sametimes	1	
					sumetimes	1	
	d	bike	73	10	baik	6	
					biku	4	
5	a	4 1 3 2	82	3	1432	8	bでは、「～すぎる」の意味のtooについて理解不足である誤答が多かった。cでは、命令文の文型の理解不足が見られた。dでは、疑問詞+名詞の疑問文の語順が正しく定着していない誤答が多く見られた。文法事項の説明だけにとどまらず、言語活動を通して活用の場面を多く取り入れ、表現の幅を広げていく指導を心がけたい。
	b	1 4 2 3	27	4	1432	37	
					4132	17	
	c	2 3 1 4	26	3	4123	14	
					4231	8	
	d	3 1 2 4	46	3	1243	44	
					4123	2	
6	a	2	65	1	3	29	概ね会話文の内容を正しく読み取ることができていた。しかし、aでは3の誤答が約3割あり、理解できる語彙のみから類推し、会話文全体の内容まで読み取れなかったことが考えられる。日頃からまとまりのある文の読み取りに慣れさせていきたい。
					1	4	
	b	3	78	1	1	12	
					2	9	
	c	2	75	1	3	15	
					1	9	
7	a	4	86	1	1	5	bでは、与えられた情報を整理できなかったため、誤答が半数以上を占めた。cでは、全体を読まずわかる単語だけで読み、誤答につながった。様々な形式の英文を読む機会をつくり、正確に情報を整理する力を身に付けさせたい。
					2	5	
	b	1	28	2	3	32	
					2	29	
	c	2	45	2	1	28	
					3	19	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
8	A	4	41	3	3	26	やや長い文章の内容を読み取ることが求められる設問で、場面や状況をイメージしながら読むことが難しかったと思われる。特にBは、文章全体の内容から適切な場面を選ぶ必要があり、誤答率も高かった。 まとまりのある文章を読み取らせる際に、部分的な内容だけにとらわれず、場面や背景についても意識させながら読み取る力をつけさせたい。
					2	16	
	B	2	24	2	3	30	
					4	25	
	C	2	49	2	1	20	
					3	20	
	D	2	43	3	5	43	
					4	42	
3					26		
	6	26		1	14		
9	a	What time is it ?	26	17	What time (come/go) to bus?	11	場面に合う表現を書こうとしていたが、返答に対する適切な質問でない解答や綴りの誤りが多かった。 話す活動だけでなく、様々な言語活動の中で4技能を適切に活用させながら表現を定着させたい。
					When ~?	7	
	b	How many bags do you have?	32	27	What bag do you (like/have)?	7	
					Do you have (bags)?	4	
10	(1)	I'm on the soccer team.	32	10	don't play soccer.		主語やbe動詞の欠落や、つながりのある文を書くことに課題が見られた。 1つのテーマについて、複数の文で表現させる活動を取り入れていきたい。
					I on the handball team.		
	(2)	I practice soccer every day.	45		I love apples.		
					I don't play soccer.		
放1	a	3	80	0	1	19	情報を聞き取ることは概ねできていたが、細部を捉えられなかったための誤答が見られた。 ALTの話す英語に触れることや、普段から英語で授業を進めることで、自然なスピードで話される英語に慣れさせたい。
					4	1	
	b	3	82	0	1	13	
					4	4	
	c	4	93	0	3	4	
					1	2	
放2	a	2	94	0	3	5	bは、話の内容を最後まで聞かないと正しく理解できないものであったため、誤答が多かったと思われる。 授業でのやり取りで、必要な情報を正しく聞き取れているかどうかを確認しながら指導をすすめていきたい。
					1	1	
	b	3	58	0	1	34	
					2	8	
	c	2	87	0	1	10	
					3	3	
放3	a	2	79	0	1	10	それぞれの質問に対する応答は概ねできていた。cでは、複数の主語を正確に判断しきれなかったための誤答が多く見られた。 言語活動を通して、意味のあるやり取りの中で、適切に応答する力を高めさせたい。
					3	6	
	b	4	91	0	3	5	
	c	4	77	0	3	12	
					1	7	
放4	①	インド	93	0	インディア	5	③の誤答は、ベットという言葉から、会話の内容とは関係なく類推した語を答えたことによるものと思われる。④は、40と14の聞き取りが正しくできなかったことによる誤答が見られた。 授業の中でただ英文を聞かせるのではなく、聞く目的を設定し、何を聞けばいいのかを意識させる指導を心がけたい。
					ごはん	4	
	②	弁当(ランチ, 昼食)	82	2	本	3	
					犬	10	
	③	鳥	74	7	オウム	3	
					14	21	
④	40	61	1	4	10		

Ⅲ 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語 第2学年】

問題番号	趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
	大問	小問	知・技	思・判・表	表現				
1	a	○			◎	会話文の組立て	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	81	1
	b	○			◎		絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	75	1
	c	○			◎		絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	79	1
2	①	○			◎	語彙の知識	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	29	31
	②	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	47	19
	③	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	18	36
	④	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	51	18
3	a	○			◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	67	1
	b	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	60	1
	c	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	57	1
	d	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	44	1
	e	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	60	2
4	a	○			◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	18	4
	b	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	25	4
	c	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	31	4
	d	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	25	5
	e	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	6	5
5	a	○			◎	会話文の読み取り	会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	35	2
	b	○			◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	53	2
	c	○			◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	45	3
6	a	○			◎	様々な形式の英文の読み取り	注意書きや会話文、メールなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	52	4
	b	○			◎		注意書きや会話文、メールなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	30	5
	c	○			◎		注意書きや会話文、メールなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	34	6
7	A	○			◎	長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	47	5
	B	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	51	5
	C	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	50	6
	D	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	40	6
	E	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	28	8
8	a	○	◎			英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	45	24
	b	○	◎				与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	10	37
9		○	◎			英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	3	33
		○	◎				与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	11	33
放1	a	○			◎	リスニング(絵を選ぶ)	短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	66	1
	b	○			◎		短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	81	1
放2	a	○			◎	リスニング(会話内容)	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	64	1
	b	○			◎		短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	42	2
放3		○			◎	リスニング(絵を選ぶ)	まとまった長い英文を聞き、話の概要を理解することができる。	64	1
放4	①	○			◎	リスニング(会話内容)	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	21	51
	②	○			◎		まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	65	18

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		48.9
思考・判断・表現		38.0

2. 主な誤答と分析【英語 第2学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	1	81	1	2	10	aでは、絵を見て状況を適切に判断し、場面に応じた適切な表現の選択が概ねできていた。bでは、会話の流れをつかまずに判断する誤答が見られた。場面や状況にあった言語活動を繰り返し行うことで、定着を図りたい。
	b	3	75	1	2	19	
	c	1	79	1	1	2	
2	①	explain	29	31	example	11	発音からつづりを想像して書いた誤答が多かった。また、与えられた始まりの文字と文字数のみで判断して単語を書いたことによる誤答が目立った。様々な活動の中で音とつづりを意識させるとともに、単語だけを書かせるのではなく、文脈を意識して英語を書く活動を取り入れたい。
					exprain	5	
	②	again	47	19	agein	30	
					about	3	
③	raise	18	36	right	17		
				round	10		
④	flower	51	18	frower	8		
3	a	4	67	1	1	16	bでは、人称代名詞の適切な使い方ができていないための誤答が多く見られた。cとdでは、場面や状況の判断ができていないことによる誤答が見られた。目標文だけを取り出して指導するのではなく、日頃から場面や状況を意識させた言語活動を行って様々な表現を定着させたい。
					2	10	
	b	3	60	1	2	22	
					1	11	
	c	1	57	1	3	22	
					2	10	
	d	2	44	1	3	22	
					1	21	
	e	3	60	2	1	17	
					2	12	
4	a	3 1 4 2	18	4	3241	12	be afraid of～やlook for～、something newなどの既習表現が身に付いていなかったことによる誤答が多く見られた。基本的な表現や慣用表現については、繰り返し音読することのみにとどまらず、言語活動を通して表現を活用させながら、文型の定着をはかりたい。
					4231	12	
	b	2 4 1 3	25	4	3124	25	
					4123	10	
	c	1 4 2 3	31	4	1432	15	
1342					9		
d	3 2 4 1	25	5	4132	19		
e	4 2 3 1	6	5	3421	19		
				4321	14		
5	a	A=3 B=1	35	2	A=2 B=1	36	会話全体の内容を把握せず、目についた語彙から類推し、会話文全体の内容まで読み取れなかったことが考えられる。教科書の内容を要約するなどしながら、要点を捉える力を育成したい。
					A=2 B=3	11	
	b	A=2 B=3	53	2	A=3 B=3	15	
c	A=1 B=3	45	3	A=1 B=3	10		
				A=2 B=3	14		
					A=2 B=1	8	
6	a	2	52	4	3	19	内容を読み違えたり、情報を整理したりすることができず、誤答につながった。授業では、情報を正確に読み取る力をつけるために、様々な形式の長い文章に慣れる活動を取り入れたい。
					4	13	
	b	4	30	5	1	22	
2					20		
c	2	34	6	1	34		
					4	18	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
7	A	3	47	5	4 2	22 18	Aでは、知っている語のみから予測した誤答が多かった。Dでは、記事と会話の内容を結びつけることができないことによる誤答が多かった。Eに誤答が多かったことから、記事の要約を正しく読み取れていないことがわかった。 授業の中でただ英文を読ませるのではなく、要点を捉えるなど課題を明確にした指導を心がけたい。
	B	1	51	5	4 2	24 21	
	C	4	50	6	2 3	18 14	
	D	3	40	6	1 2	35 17	
	E	4	28	8	2 3	33 24	
8	a	Shall I wash	45	24	Shall I help Could you clean	3 2	bは、正答率が低く無答も多かった。 言語活動の中で、よく使う表現や定型の表現を繰り返し使うことで定着を図りたい。
	b	How can I get to	10	37	How does it take to Where do you go to	5 3	
9		There are a lot of old temples in Kyoto. When you visit Kyoto, you can see them. They are very interesting.	正確さ 3 内容 11	33			綴り間違いや文のつながりといった部分で、多くの課題が見られた。 自分の考えをまとめた英文で書く活動を授業に取り入れ、適切な中間指導を繰り返しながら、正確さを高める指導をしていきたい。
放1	a	1	66	1	3 2	12 11	細かい情報を捉えることができず、誤答につながった。 普段から英語で授業を進めることで、自然なスピードで話される英語に慣れさせたい。
	b	2	81	1	1 4	6 5	
放2	a	2	64	1	1 3	16 10	会話の流れを受け、応答が正確にできず誤答につながった。 言語活動を通して、やり取りの中で適切に応答する力を育成したい。
	b	4	42	2	1 3	25 19	
放3		4→1→3	64	1	2→1→3 1→3→4	5 4	話の順序を整理して理解することができないための誤答が見られた。 ただ英文を聞かせるのではなく、聞くポイントを定め、何を聞けばいいのかを意識させる指導を心がけたい。
放4	①	時計	21	51	あいさつ	2	話の中心となる表現を聞き取れず、無答が目立った。 聞く活動では、単にメモを取らせるだけではなく、課題を設定し、目的を明確にした上でメモを取る活動を取り入れたい。
		持ってきた(持ってくる)			朝を 伝えに来る 見せる	2 2 2	
	②	魚を捕まえることができた(捕まえた)	65	18	泳いだ 溺れた	5 3	

IV 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語 第3学年】

問題番号		趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表	表現	理解	言語				
1	a	○			◎		絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	86	0	
	b	○			◎		絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	96	0	
	c	○			◎		絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	87	0	
2	①	○				◎	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	39	30	
	②	○				◎	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	43	32	
	③	○				◎	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	66	19	
	④	○				◎	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	54	17	
3	a	○				◎	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	70	0	
	b	○				◎	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	73	0	
	c	○				◎	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	54	1	
	d	○				◎	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	75	0	
4	a	○				◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	56	2	
	b	○				◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	46	3	
	c	○				◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	68	2	
	d	○				◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	54	5	
	e	○				◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	61	2	
5	a	○				◎	会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	62	0	
	b	○				◎	会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	70	1	
	c	○				◎	会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	51	1	
6	a	○				◎	広告やメール、会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な答えを選択することができる。	46	3	
	b	○				◎	広告やメール、会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な答えを選択することができる。	61	3	
	c	○				◎	広告やメール、会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な答えを選択することができる。	42	4	
7	A	○				◎	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	64	3	
	B	○				◎	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	55	4	
	C	○				◎	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	55	4	
	D	○				◎	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	42	1	
8	a	○				◎	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を完成させることができる。	45	8	
	b	○				◎	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を完成させることができる。	26	20	
9	正しさ	○				◎	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	15	21	
	内容	○				◎	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	44		
放1	a	○				◎	短い会話文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。	56	0	
	b	○				◎	短い会話文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。	88	0	
放2	a	○				◎	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	36	1	
	b	○				◎	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	47	0	
放3		○				◎	まとまった長い英文を聞き、話の概要を理解することができる。	72	0	
放4	①	○				◎	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	33	16	
	②	○				◎	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	38	4	

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		62.8
思考・判断・表現		48.3

2. 主な誤答と分析【英語 第3学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	2	86	0	1	7	絵を見て状況を判断し、場面に合った適切な表現を選択することができていた。 様々な場面での言語活動を繰り返し、場面に応じた表現の定着を図りたい。
	b	1	96	0	2	2	
	c	1	87	0	3	8	
2	①	Through	39	30	thought	4	③、④では、単語自体は推測できているものの、綴りを正確に書くことができないための誤答が目立った。 様々な活動を通して多くのインプットを心がけるとともに、正しく書くことを意識した活動も取り入れていきたい。
					throght	1	
	②	earth	43	32	early	5	
					equal	2	
③	known	66	19	kinds	4		
				keeps	2		
④	save	54	17	seed	4		
				seve	2		
3	a	2	70	0	1	13	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することが概ねできていた。cでは、分詞の後置修飾の形を選択する誤答が多く見られた。 ターゲットセンテンスだけに焦点を当てるのではなく、既習事項も含めて繰り返し活用することで、基本的な文構造の定着を図りたい。
					3	12	
	b	3	73	0	4	14	
					2	11	
c	4	54	1	3	30		
				1	9		
d	4	75	0	1	13		
				3	9		
4	a	3 1 4 2 5	56	2	31452	15	bでは、Which do you like~?の語順での誤答が多く見られた。 会話表現において使用頻度が高いものなので、話すこと[やり取り]を意識した帯活動等で疑問詞+名詞の文の定着を図りたい。
					31245	7	
	b	4 1 3 5 2	46	3	13524	20	
					13542	19	
	c	3 2 1 4 5	68	2	31452	7	
					31245	6	
d	2 5 1 3 4	54	5	13425	9		
				13254	3		
e	4 5 3 2 1	61	2	42531	8		
				45231	4		
5	a	A=2 B=1	62	0	A=1 B=1	13	aやcでは、内容を正しく読み取れないために、動詞の選択において誤答が多く見られた。 教科書の内容をリテリングするなどし、理解した内容や情報を整理し、まとめる力の育成を図りたい。
					A=1 B=2	6	
	b	A=3 B=2	70	1	A=1 B=2	8	
A=3 B=3					8		
c	A=1 B=3	51	1	A=2 B=3	14		
				A=3 B=3	10		
6	a	4	46	3	2	25	aでは情報量に対応できなかったための誤答が見られた。cでは、冒頭部分のみを読んだり最後まで読み切らなかったりしたための誤答が目立った。 様々な種類の英文を読む機会を作り、概要や要点を捉える力をつけるような読む活動の指導を心がけたい。
					3	16	
	b	1	61	3	2	17	
3					11		
c	3	42	4	4	22		
				1	20		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
7	A	1	64	3	2 3	16 11	長い文章の中から、情報や登場人物の考えを正確に読み取ることが不十分であり、全体的に正答率は高くなかった。文章全体の要点をまとめたものを選択するDでは、正答率が半数以下となった。 教科書以外の英文を読む機会を多く設定し、課題を設定した上でまとまった英文を読む機会を多く設けたい。
	B	4	55	4	3 2	16 13	
	C	3	55	4	1 4	19 14	
	D	3	42	1	4 2	29 14	
8	a	How long have you been	45	8	How long have you live? How long do you study?		概ね場面に応じた英文を書こうとしていたが、正確さに課題が見られた。日頃から表現活動の機会を増やし、文構造を意識させるような言語活動を取り入れたい。
	b	have the pamphlet written	26	20	have a pamphlet which written have other language		
9	(1)	My father bought it for me	正確さ 15	21			テーマに沿って何かを書こうとする意欲が見られたが、文法や語彙、冠詞の欠落などの誤りが多く見られた。既習事項を活用し、まとまった英文を書く活動を大切にしつつ、綴りや冠詞など、細部にも注意を向けられるよう自分が書いたものを振り返らせる指導を行いたい。
	(2)	I have used it for 7 years					
	(3)	I practice soccer with it every day	内容 44				
放1	a	4	56	0	3 1	35 8	aの現在完了形の表現において誤答が多く見られた。英語による授業展開の中で、自然なスピードでの英語に慣れさせたい。
	b	2	88	0	4 1	6 3	
放2	a	2	36	1	4 1	49 10	直前に聞こえた単語のみで判断したための誤答が見られた。言語活動を通して、話の流れに応じて適切に応答する力を高めさせたい。
	b	2	47	0	4 1	34 12	
放3		3→2→1	72	0	3→1→2	14	まとまった長い英文を聞き、話の概要を理解することが概ねできていた。日頃から長い文章を聞く活動を積極的に取り入れていきたい。
					2→3→1	13	
放4	①	最もおいしい料理が食べられる ----- 値段は高い	33	16	最も有名 おいしくて人気 安い 厳しい		2つの店の情報を聞き取らなければならなかったために混同しているものや、キーワードになる名詞のみで判断したための誤答が見られた。まとまった英文をメモを取りながら聞かせて概要を理解させたり、意味のまとまりを意識したディクテーションを行ったりして正確に情報を聞き取る力をつけさせたい。
	②	世界中の料理 ----- 駅の近く	38	4	様々な食べ物 おいしい料理 駅 世界中		

V 全体の考察と今後に向けて

1. 全体の考察

今年度も学習診断テスト本来の目的や趣旨をとらえ、学習状況を把握できるように作問した。問題全体の英文については、場面設定も含め、より自然な実際のコミュニケーションを意識した文章作りを心がけた。10行程度の文章を丁寧に読む問題や、長文の概要を把握する問題などを出題し、多様な種類の文章を用いながら生徒の英文読解力を測った。また、これまでの診断テストの形式をできる限り踏襲しながらも、今年度行われた全国学力学習状況調査の問題も意識し、一部新たな問題形式を取り入れた。

英作文問題については、新学習指導要領の「書くこと」の目標である『日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。』を考慮し、教科書の Chapter Project を応用できるように作問した。評価基準については、昨年度同様「文の正確さ」「内容」の2観点から評価するルーブリックの形式を取り入れた。パフォーマンス評価は今後一層必要となることもあり、こちらが提示した評価基準をベースにしながらも、各校の CAN-DO リストや日頃の授業の実態に合わせた判断、生徒の書く意欲を伸ばす判断をもとにした集計をお願いしたい。生徒・教師がともに、「これまでの学習を通して何ができるようになったのか」という視点に立ち、妥当性を高め、各観点の力を判断できるような作問を今後も進めていきたい。

問題の趣旨ごとに平均正答率を見ると、1年生「知識・技能」72.2%（昨年度 71.2%）、「思考・判断・表現」52.9%（同 55.5%）、2年生「知識・技能」48.9%（同 61.4%）、「思考・判断・表現」38.0%（同 39.7%）、3年生「知識・技能」62.8%（同 58.6%）、「思考・判断・表現」48.3%（同 44.0%）であった。「知識・技能」に関する問題と「思考・判断・表現」に関する問題との差が大きく開く状況が今年度も見られた。

新学習指導要領では、語彙数の増加や新たな文法事項を取り扱うなど、現状よりも学習内容が増える。週4時間の授業の中で、語彙や文法事項の理解、教科書本文の内容理解などを指導しながら、「話すこと」「書くこと」の表現活動の時間を確保することが難しくなることが予想される。しかし、言語活動を中心に授業を構成し、帯活動などをうまく利用し、限られた時間の中でもさまざまな表現活動を継続することが、表現の能力を伸ばす第一歩となるだろう。教科書にある Chapter Project や生徒の興味を引く題材を用いて、言語活動を設定し、外国語表現の能力を伸ばすよう努めたい。

2. 領域ごとの考察

(1) 知識・技能に関する問題について

- 1学年一
 - ・問1は概ね正答率は高かったが、this と that が場面の状況に合わせて使い分けられていない誤答が多く見られた。
 - ・問2bでは Does を使った疑問文への理解不足からくる誤答が一部に見られた。
 - ・問3の適語選択問題では、疑問詞の使い分けや一般動詞と be 動詞の違いが理解できていないことによる誤答が多く見られた。
 - ・問4の単語を書く問題では、単語自体は分かっているが、音と綴りの関係性がまだ定着していないための誤答が多く見られた。繰り返し学習していく中で音と綴りの関係について生徒自身の気づきを促していく指導を心掛けたい。
 - ・問5の並べ替え問題 b では、「～すぎる」の意味で使われている too を文末に持つてくる誤答が半数を占め、正答数を大きく上回った。c では目的語として使われている it を主語と勘違いした誤答が多かった。また、d の疑問詞＋名詞の語順の定着も課題である。
 - ・聞き取りテストは概ね正答率が高かったが、問題2の b は話の内容を最後まで聞かないと理解できない問題であったため、唯一正答率が低かった。
- 2学年一
 - ・問1は絵だけでなく、会話文も読んだ上で正答を導き出さなければならなかったのだが、会話の流れをつかまずに判断する誤答が目立った。
 - ・問2の単語を書く問題は、意味を理解して正答の単語を推測できてはいるものの、綴りを正しく書けない誤答が目立った。また、与えられた始まりの文字と文字数のみで判断し、

とりあえず自分の知っている語を書く誤答も見られた。

- ・問3の適語選択問題では、文法内容は概ね理解できているものの、場面や状況の判断ができていないための誤答が多く見られた。
 - ・問4の並べ替え問題は、複雑で難易度の高い文が多かったため、どの問題も正答率は低かった。この設問では、会話文の流れをとらえ、並べ替え部分がどのような意味の文になるのかを推測し、それに応じて英文を構築することが求められる。単純に語彙や熟語に焦点を当ててではなく、意味に焦点を当てて捉えるよう指導したい。
 - ・聞き取りテストでは、会話の流れの中で鍵となる単語や情報を捉えられていないための誤答が目立った。
- 3学年一
- ・問1は概ね正答率は高かった。誤答の多くは単語の意味を理解できていないためと思われる。
 - ・問2の単語を書く問題は誤答よりも無答率の多さが気になる結果となった。特に①の **through** と②の **earth** は無答率が3割を超えた。他の2つの単語も含め、日本語の対訳があるにもかかわらず無答や全く違う内容の誤答が多いのは、問題部分とその始めの文字のみを見て安易に判断した結果なのではないかと考えられる。
 - ・問3の適語選択問題は、場面や状況に合わせて文脈を読み取り、適切な語句を選択することが概ねできていたが、cの問題では不定詞の形容詞的用法を選ぶべきところを分詞の後置修飾の形を選ぶ誤答が多かった。この問題に関しては安易に最近習った文法事項を選んだためだと思われる。
 - ・問4の並べ替え問題では、cの **Which sport do you like better?**を答える文が最も正答率が低かった。1年生の時から繰り返し学習してきた疑問詞+名詞の表現が定着していないことを表す結果となった。
 - ・聞き取りテストは問題によって正答率が大きく異なった。問2のチャイムの部分にあてはまる言葉を選ぶ問題では、直前に聞こえた単語のみで判断したための誤答が多かった。

(2) 思考・判断・表現に関する問題について

- 1学年一
- ・問6は比較的長い英文を読み、会話の中に出てくる情報を正確に把握し、それぞれの人物についての正しい情報を選択する問題とした。有名な漫画を話題にした比較的平易な会話文だったこともあり、内容を読み取ることは概ねできていた。
 - ・問7では英語で書かれた掲示物の内容理解、ウェブサイトの情報を見ながらの会話文、メールでのやり取りという異なった形式の英語をいかに正確に読み取るかを求めた。特に **b** の問題は様々な情報を整理し答えを導き出す複雑な問題だったため、正答率は3割を切った。さまざまな形式の英文を読むことで、情報を整理して読む力をつけていきたい。
 - ・問8の長文問題は、文章量の多さや、長文問題の形式にもまだ慣れていないためか、場面や状況をイメージしながら読むことが難しかったと思われる。部分的な内容だけにとらわれず、場面や背景についても意識させながら読み取る力をつけさせたい。
 - ・問9の英作文では、絵と会話内容から判断し、場面に合った英文を書こうとしたが、返答に対する適切な質問でない解答や、綴りの誤りが多かった。
 - ・問10の英作文は教科書の **Chapter Project** と類似した内容であり、基本的な自己紹介文だったため、無答率は低かったが、主語や **be** 動詞の欠落、冠詞の用法の誤りが多く見られた。また、「つながりのある文」がどのようなものかを理解できておらず、好きなものや嫌いなものを羅列する解答が多かった。「つながりのある文」とはどういう文なのかをもう一度確認させたい。
 - ・聞き取りテスト問題4は、まとまった英文を聞き、その情報を整理することは概ねできていた。誤答として、ペットという言葉から会話の内容とは関係なく類推した語を答えたものや、40と14の数字の聞き取りが正しくできなかったものが多かった。
- 2学年一
- ・問5の対話の内容を要約する問題は、10行に満たない程度の会話文ではあるが、内容自体が複雑になっており、「だれが」「どうする」などの重要な情報を読み取らなければならない。しかし正答率の低さや誤答内容から考えると、文中のいくつかの語句から内容を類推するなどして導いた解答が多く、必要な情報を正確に読み取ることができていないことが分かる。

- ・問6では、与えられた多くの情報を整理し、内容を正確に読み取る力が求められるため、正答率は低かった。特にbやcの問題は英文自体の難易度も高く、時間をかけてじっくりと読む必要がある。表やグラフなどを見ながら英文を読む形式の文は普段あまり授業で取り扱わず、慣れていないことも原因と考えられる。
 - ・問7の長文問題は、これまでより問題数を減らし、内容理解に焦点を当てた出題形式とした。文の内容は決して難解なものではなかったが、英文の量が多く、その内容を正確に理解するまではできていないことが正答率から読み取ることができる。特に、文全体の内容を要約するEの問題では正答率が3割を下回る結果となっている。
 - ・問8の英作文では、絵の状況と前後の会話内容を把握し、既習事項を使い適切な応答ができるかを問題のねらいとした。aでは自ら手伝いを申し出る際に使う助動詞を使った文で、語数も少なかったが、細かいミスによる誤答が多かった。bは道を尋ねる際に使う定型表現だったが、その表現が定着していないことが分かる。この文は教科書内では道案内をする会話活動の中で出てきた文ではあるが、道案内という特殊な場面で使用される表現であったため繰り返し学習する機会も少なかったと思われる。
 - ・問9の英作文は教科書のChapter Projectを応用した形式の内容を出題した。また、英文の記入に際し、全国学力学習状況調査に準ずる記入方式をとった。2年生にとっては初めて見る形式だったことも、無答率の高さの一因と考えられる。ただ、これまで同様、内容のつながりや文の正確性といった部分での課題が今年度も見られた。
 - ・聞き取りテスト問題3では、まとまった量の英文を聞き、その内容と合う適切な絵を時系列で並べる問題を出題した。教科書とよく似た内容の文であったこともあり、概ねできていた。問題4では、日本語のメモから内容を勝手に推測したり、語と語のつながりを聞き取れず、別の単語と勘違いする誤答や無答が目立った。これらのことから、自分が聞き取れた単語と問題の中の日本語を曖昧に結びつけ、答えを導き出していることがわかる。
- 3学年一
- ・問5の対話の内容を要約する問題は、10行前後の会話文ではあるが、内容が複雑なため、情報を適切に整理する力とともに、読み取った情報を言い換えたり、まとめたりする力が必要である。教科書の本文を上手く活用したい。
 - ・問6では、与えられた多くの情報を整理し正確に内容を読み取る力が求められるため、正答率は高くはなかった。特にcの問題は、最後まで情報を整理しながら読み切らないと正答を導き出せないため、誤答につながった例が多く見られた。
 - ・問7の長文問題は、昨年度よりも問題数を大幅に絞り、より内容理解に重きを置いた。時事的なトピックも含んだ内容ではあったが、情報や登場人物の考えを正確に読み取らないと正答を導くことのできない設問もあり、正答率は高くはなかった。話の主題や登場人物たちの考えなどを整理しながら、正確に読み取る力をつけさせたい。
 - ・問8の英作文では、会話内容を理解し、場面に応じた英文を書くことは概ねできていたが、正確さに課題が見られた。解答用紙をそのまま返却して終わりにするのではなく、改めて問題の内容に触れ、自分の解答のどこを直せば正確な文になるのかを教師が提示し、授業や定期テストなどで改めて問うことで、生徒の意欲を損ねることなく、定着を図りたい。
 - ・問9の英作文は、2年生のChapter Projectで扱った内容を発展させ、3年生で学習した表現も含めながら、より膨らませて書くことができるようにテーマを設定した。テーマに沿って書こうとする意欲は見られたが、文法や語彙、冠詞の欠如などの細かい部分の誤りが多く見られた。それらを意識させながら、自分のことについて説明する英文を書く活動を継続させたい。
 - ・聞き取りテスト問題3は、まとまった量の英文を聞き、その内容の描かれた絵を時系列で並べる問題を出題した。英文自体は長めであったが、3枚の絵を並べ替える出題だったため、正答率は高かった。問題4は2つの括弧に適切な日本語を当てはめる問題だったが、2つの店の情報を混同して聞き取ったと思われる誤答や、鍵となる名詞のみで判断したための誤答が多く見られた。

3. 経年観察およびその考察

学年	経年変化の視点	趣旨	実施年度			考察
第1学年	疑問詞を含んだ文の応答	知・技	H29	H30	R1	前年度同様に8割以上の生徒が正解している。正答率の高さからも、疑問詞を含んだbe動詞の疑問文は概ね定着していると思われる。疑問詞については、やり取りを続けるために基本となる語であり、スモルトークや授業の中のやり取りなどでも、積極的に使うことで身に付けさせたい。
			問2b	問2b	問2a	
			80%	89%	87%	
	be動詞と一般動詞の区別	知・技	H29	H30	R1	昨年度より正答率が6%低下し、3割近くの生徒がbe動詞と一般動詞の区別ができていない。be動詞と一般動詞の区別は、英語の基礎となる部分でもある。場面から切り離れた英文で練習するのではなく、コミュニケーションの中で繰り返し活用させながら定着させたい。
			問3②	問3②	問3③	
			83%	79%	73%	
会話文の理解	知・技	H29	H30	R1	昨年度に比べ大幅に正答率が低下した。今年度は、会話文を正確に読み取るだけでなく、表の情報と結び付けながら読み取る問題だったため、表の情報と会話の情報を関連付けることが難しかったと考えられる。授業の中の言語活動で、オーセンティックな題材などにも取り組むことで様々な形式の情報に慣れさせたい。	
		問7c	問7b	問7b		
		41%	76%	28%		
必要な情報の理解	知・技	H29	H30	R1	必要な情報を読み取る設問は、年々正答率が下がっており、今年度は正答率が初めて5割を切っている。ただ単に英文を正確に読み取るだけでなく、目的や場面に応じて英文から必要な情報を取り出したり、要点を捉えたりする活動を設ける必要がある。	
		問8d	問8d	問8c		
		75%	67%	49%		
会話の流れに合った英文を書く	思・判・表	H29	H30	R1	昨年度より正答率が下がり、3割程度の正答率となっている。今年度のaの設問は、場面を読み取ることができないことによる誤答が多かった。日本語を英語にするだけでなく、その英文がどのような場面で使用されるのか、場面と結び付けた指導が必要である。	
		問9a,b	問9a,b	問9a,b		
		55%,46%	52%,31%	27%,31%		
第2学年	英文を聞き、内容の要点を捉える	思・判・表	H29	H30	R1	概ね例年と同じ正答率である。①の正答率は2割程度となり、要点を捉えることに課題が見られる。英語を正確に聞き取ることだけでなく、聞く目的を明確にし、聞き取った情報の中から要点を捉えるような言語活動に取り組む必要がある。
			放4	放4	放4	
			23%,38%	25%,56%	21%,65%	
	助動詞を含む文の並べ替え	知・技	H29	H30	R1	例年に比べ大幅に正答率が低下している。May I open the window?など普段教室で使用する英文ではなく、助動詞とbe動詞を組み合わせた上に、選択肢の中に前置詞のlikeが入っており、生徒が混乱したためだと思われる。会話文の意味を捉えながら英文を作る力を身に付けさせたい。
			問4b	問4d	問4d	
			79%	72%	25%	
メールの内容理解	知・技	H29	H30	R1	年々正答率が低下し、6割以上の生徒が誤答となっており、メールの形式の英文の内容理解には課題がある。日頃よりさまざまなタイプの英語に触れる必要がある。言語活動の中で、読む目的を明確にしながさまざまな英文に触れさせたい。	
		問6c	問6b	問6c		
		47%	41%	34%		
会話の流れに合った英文を書く	思・判・表	H29	H30	R1	昨年同様に1問は正答率が1割程度となっており、英文を書くことに課題が見られる。日本語を英語にするだけでなく、その英文がどのような場面で使用されるのかを考える、場面と結び付けた指導が必要である。また、例年同様に綴り等の間違いも見られることから、継続的に書く活動を取り入れる必要がある。	
		問8a,b	問8a,b	問8a,b		
		19%,16%	8%,38%	45%,10%		
第3学年	英文を聞き、内容の要点を捉える	思・判・表	H29	H30	R1	昨年度に比べ大幅に正答率が低下している。ホテルの人からおすすめのお店を紹介してもらおうという場面が生徒に馴染みのないものであるからだと考えられる。授業の中で多様な場面設定の言語活動に取り組ませたい。
			放4	放4	放4	
			66%,20%	69%,42%	33%,38%	
	現在完了形を含む文の並べ替え	知・技	H29	H30	R1	昨年度に比べ正答率は低く、現在完了の時制については定着に課題があると考えられる。現在完了には、さまざまな用法があるが、have + 過去分詞形という形だけに焦点を当てるのではなく、言語活動の中で意味を意識させ、繰り返し活用する中で定着を図る必要がある。
			問4a	問4c	問4a	
			66%	85%	56%	
メールの内容理解	知・技	H29	H30	R1	昨年度より正答率が大幅に上がり、6割の正答率である。昨年度は、資料からも結びつける必要があったが、今年度は資料はなく、メールの内容を読み取る設問であったからだと考えられる。読む活動では、日頃よりさまざまなタイプの英語に触れる必要がある。言語活動の中で、読む目的を明確にしなが読みの活動に取り組ませたい。	
		問6a	問6c	問6b		
		68%	44%	61%		
会話の流れに合った英文を書く	思・判・表	H29	H30	R1	約35%の正答率で例年同様に場面に合わせた英文を書くことに課題が見られる。場面を設定した上での言語活動に取り組みたい。また、綴りのミス等も多く見られることから、継続的なライティング活動にも取り組む必要がある。	
		問8a,b	問8a,b	問8a,b		
		30%,18%	26%,31%	45%,26%		

4. 授業改善に向けて

令和元年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくることや、その改善のための指導の留意点などを、出題の趣旨別に記したい。

(1) 知識・技能に関する問題について

語彙の指導については、単語テストや宿題などで単語を書くことがよく行われているが、定着率は高くないようである。語彙や表現は、使用場面から切り離して教えるのではなく、言語活動で実際に繰り返し活用する中で定着を図ることが重要である。授業での言語活動の充実を図りたい。また、音声では理解できていても正確に書くことができていない解答が多く見られた。そこで重要になってくるのが授業内でのフォニックス指導だろう。言語活動の中で、例を取り上げ帰納的に実施するフォニックス指導が、「話す」活動だけでなく「書く」活動にもつながってくるはずである。

文法事項や頻出慣用句に関する問題では概ね正答率は高かったが、前後の内容を考えずにいくつかの単語を見て解答を導いてしまう誤答が多かった。Q and A や 1 分間会話などの学習活動が機械的な暗記にならないように、「形」だけでなく「意味」や「使用場面」に焦点を当て活動を行い、積極的にプラスワンセンテンスするなどの工夫をしていきたい。

聞き取りテストでは、初歩的な対話や説明、視覚的なヒントがある問題の正答率が高いが、文章が長くなると情報を整理して聞き取ることが難しくなっている。日頃から積極的に教師、ALT が英語で身近な話題で語りかけ、まとまった英文の内容の要点や概要を理解するような活動や、単なる Yes/No の答えにならない、様々な疑問詞を使用した open-end な質問と、それに対する適切な受け答えを行うなどの言語活動を継続したい。

(2) 思考・判断・表現に関する問題について

英文読解問題では、「必要な情報を正確に読み取ること」「概要や要点を捉えること」ができないことによる誤答が目立った。これは文章を音読する活動や大意を掴む活動は行っているが、読む目的を設定して、その目的に応じて読む活動が不十分なためによるものだと考えられる。本調査では、英文を正確に読む問題、英文から必要な情報、概要や要点を捉えたりする問題と、大きく分けて 2 種類の「読む」問題を入れているが、どの学年どの問題においても、概ね内容理解はできてはいるものの、英文から必要な情報や要点や概要を捉えることには課題が見られた。このような読解の技能は日頃の取組により伸びていくと思われる。教科書の本文以外にも LEAD (英語教材作成支援システム) やインターネットを使用すれば、生徒の興味を引くことができる様々な種類の英文を容易に探し出すことができる。それらを有効活用し、ある程度まとまった英文の内容から必要な情報を把握させる活動を取り入れたい。その際、いつ・どこで・だれが・どうした、といった内容のあらすじの要約を時間の流れに沿って話を再構成させる story retelling の活動も有効であろう。

聞き取りテストでも読解問題と同様の傾向が見られた。内容が少し複雑なものや文章量の多い問題では、大まかに聞き取った単語などから、曖昧に内容を推測したであろうと思われる解答が目立った。授業の中でリスニング活動を行う場合、その多くが教科書の中の比較的平易で短い文の聞き取りなのではないだろうか。「読む」活動同様、教科書以外の教材も上手く使い、長めの文を聞く活動も積極的に取り入れたい。

英作文問題では、問題自体は昨年同様大きく 2 種類の問題を出題した。一つは絵とその会話から英文を考えて書く問題で、問題自体は自由英作文のように見えるが、絵で示された状況の中で既習の英語を的確に使用し、その状況に合わせた受け答えができるかを測る条件英作文である。そしてもう一つが比較的自由に自分自身について書く問題である。既習の語彙や表現を活用して自分の気持ちや考えを伝え合う言語活動をどれだけ実施し、表現する力が身に付いているかを測った。また、評価に関しても、今後はより多くの英作文を書くことが求められていくことを踏まえ、1 文ずつ評価するのではなく、文章全体を見て「語彙や文法などがどれだけ正確に書けているか」と「書かれた英文がそれぞれ単発的なものでなく、前の文とのつながりを意識し、書いている内容をより深められているか」の 2 点を測るルーブリック評価を昨年度より取り入れている。今年度は、全国学力学習状況調査における採点方法についても参考にしている。本来、ルーブリックは他の評価に比べて信頼性が保てるような仕組みになっていると言われているが、その評価基準については引き続き検討し、信頼性を兼ね備えた英作文の評価ができるような形を作り上げるとともに、これまで課題としてきた「生徒が自分自身で考えた複数の文を、つながりを意識し

てひとつのまとまった内容の文章となるように書く」というねらいにより近づいていけるよう、改善していきたい。

(3) 全体を通して

今年度の学習診断テストもこれまで同様、場面設定を含め、より自然なコミュニケーションを意識した文章作りを心掛けた。ヒロやサキ、ベンやナンシーといった登場人物が、学校や街中などの様々な状況の中で、生き生きと会話をしていることにも注目していただきたい。ここから分かるように、コミュニケーションを行うためには、目的や場面、状況の設定が不可欠である。例えば、意見を述べる際、目的や場面、状況に応じて考えを整理したり話す内容の構成を考えたり、相手に応じた表現を選択したりする。このように「目的や場面、状況など」に応じた言語の運用を考えることで「思考力、判断力、表現力」が育成されていく。同様に授業中に行われるコミュニケーションにも目的・場面・状況がなくてはならない。ターゲットセンテンスを活用させることだけを目的とするのではなく、目的・場面・状況を設定した上で、生徒たちの気持ちや考えなどを伝え合うような言語活動に結び付けていきたい。

また、英語はコミュニケーションの中で繰り返し使用することで習得されることから、言語活動についても繰り返し実施する必要がある。単元末に単元のゴールとして言語活動を設定することだけでなく、単元の中で比較的短時間で実施できる言語活動を繰り返し設定するようにしたい。

新学習指導要領では、言語活動を通して情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質の醸成・能力の育成が求められている。その実現のために、テストを単なる評価や目標達成度の確認のためだけのものとするのではなく、ルーブリック評価なども含めて、「深い学び」を実現するための授業改善ツールとしてもさらに活用していきたい。